

調布白菊幼稚園様 研修に参加して

今回の研修で刺激を受けたことは幼稚園の環境についてと幼稚園のカリキュラムの 1 つでもある英語についてです。環境については 2 つのことが特に印象に残りました。

1 つ目は幼稚園の園庭です。土地や利用できる物を生かして様々な遊び場を作り、子ども達が十分に楽しく体を動かすことのできる個性的な環境だと感じました。実際にアスレチックで遊びを体験させて頂き、楽しく子どもの視線になって体験したところ、楽しさだけではなく些細なところでの怪我の可能性もあると理解し、保育者の声掛けだけでは行き届かないところは子ども達自らが実際に遊びを通し、体感して学べる環境だと実感しました。また遊具だけでなく園庭を囲む植物も種類が豊富で自然との距離が近く、子どもも保育者も共に発見し楽しく学べる環境を作られています。年少の子ども達が園庭で遊ぶ様子は拝見できませんでしたが、年中・年長の子ども達が園庭で遊ぶ様子を見ていて、アスレチックや自転車乗り場、砂場等で遊ぶ子ども達の近くで保育者も遊ぶ様子を見守りつつ子ども達と一緒に遊んでいる保育者の姿が見られました。自分も安全に配慮しつつ子ども達の遊びが充実したものになるよう考えていきたいと感じました。

2 つ目は園内の環境です。年少から年長までの部屋が見えやすく活動の様子が分かりやすいと感じました。自分が様々なクラスを拝見した際、製作等は机・椅子を使用していましたが朝の会等は床に座って活動する姿が見られ、このような保育の行い方もあるのだと改めて気付きました。また園内の部屋等の環境に限らず、保育者の人数が多く充実しているのではないかと思いました。それぞれに役割があり、延長専門の先生が複数いることには刺激を受けましたが、園によって環境も保育者・子供の数も異なりそれぞれの園に合わせた環境作りのこだわりや工夫を見ることが出来、自分にとってとても良い学びになりました。

次に英語について印象に残ったことは、英語の先生の人数が多く、一コマの英語の時間が約 40 分ということです。英語の先生方を数名拝見した際、どれほど英語に対し力を入れているのか理解しました。毎日英語の活動があることにより早く英語に慣れることができると感じ、また英語の活動の際には担任の先生は参加せずに英語の先生のみの活動を行うため、より子ども達も集中して取り組める環境の一つであるのだと見ていて思いました。そして英語クラスが多いため英語の活動のための部屋も多く充実していると感じました。

今回の研修ではそれぞれの幼稚園の園庭や園内などの環境や取り組まれている活動にとってこだわりや工夫があることを実際に拝見したり、園庭のアスレチックを体験させていたただくこともあり、新たな刺激を多く受けた研修でした。今回刺激を受け、学んだことを今後の自分の保育の中ではどのような形で生かしていくのかさらに考えて行動に表していくよう意識していきたいと思います。

年少 2 年目

調布白蘭幼稚園様研修に参加して

とても活気のある元気いっぽいの幼稚園という印象を受けました。英語教育に力を入れていると聞くと、どうしても“教育”という言葉に耳がとらわれてしまいますが、実際は保育の中に自然と英語が組み込まれていて子どもたちにとって英語を話す事はあたりまえのようになっていました。

この、英語を自然と身につけられる理由として一つは、環境構成です。“英語の部屋がある園舎には日本語が一言も書かれておらず、部屋の装飾をはじめ、おもちゃや絵本全て外国製の物がそろえてあり、それらを自由に使って遊べる環境が整っていました。また、そのような物を置く事によって英語を学ぶだけでなく、外国の異文化や雰囲気を知ることもでき、環境は大切だなど改めて感じました。

二つ目は子どもたちと先生のコミュニケーションです。白蘭幼稚園様では、英語の時間になると担任の先生は子どもたちと離れ別の場所へ行き、英語の先生は担任からそのまま保育を受け継いでいる様な感覚でした。津久井幼稚園の英語の時間は、担任が後ろや横で子どもたちと一緒に参加していますが、そうする事によって子どもたちは親しみのある担任の先生について日本語で話し掛けてしまうことがあります。一方、英語の先生だけしかいない空間にする事で自然と子どもが英語を話す機会が増え、英語でコミュニケーションがとれようようになりました。さらに、人数を少人数にする事で一人一人と丁寧に向き合う事ができ、それもまた話す機会を増やす事につながっていてとても良い指導法です。

今回の研修では遊びの大切さについても改めて考える事は、遊び具がたくさんあり、遊びの場が充実している事にはもちろん魅力を感じましたが、それ以上に保育者が子どもと一緒にになって遊んでいる様子を見て、保育者が遊びの手本となる事が子どもの遊びの発展を促す事がよく見て分かりました。また、私たち大人は子どもが高い所に登ろうとすると危険を予知し声掛けをして登らないよう促してしまう事がありますが、これはただの保護であって子どもたちにとってはその時を安全に過ごせたという事だけで、なぜ危ないのかどうしていけないのか理解できていない事がたくさんあります。子どもたちは楽しい事、危ない事などたくさん経験をする事で初めて学びにつながります。
日常の保育も同じで、子どもを保護するのと見守るのは同じようで違うので、よく考えて保育していきます。

H30.5.10

きんたん幼稚園様 研究会参加して

じの活動力に対する先生方が短い時間の中で子どもたちを一人一人しっかりと見ておられる姿をお手本として、指導する先生方の姿がとても印象的でした。ナロティオングは年中組を見ていて、サーコンサートで行う曲が弾けるように普段から行っているフレーズなど高い音や低い音が弾けてみたいシザーパーを取るまでいたりといきなり曲の練習をするのではなく毎日の積み重ねで子どもたちも弾けるようにならしくなっていました。

全体が練って全員の手の揃うまで行い席の周りごとに先生から弾かれていろを見て指の番号など一人一人細く指導していく三歳児たちも出来はかったで終わることなく最初おまけにわざわざ出来るものになった先生が、言めてくれたご経験についてどうかお話ししておきながら、子供たちにこれまで自信と元気樂々活動力が身につけると思いました。

修業二年生の日課などただ早く終わったから一番ではなくいつもこのひかる音ふらり、音もといいで言うことを先生方が子どもたちに伝えていてとてものち身に感動しました。一番に終わったから音めのでよくひかる音に行つて私が出来たり音でありますなど音めの方を真直に行つて見ました。

永島喜園長先生のお話の中にあた「共に感動」という言葉が自分の心に響きました。発表会などバスのとなり秦商太が発表され出てバスで感動した。子どもに「先生大好き」「先生のところに来たい」と言われた時に喜やを真似て感動したりなど共に感動するには幼幼稚園の先生たちからこそ出来るんだと私は思いました。石原様に参加してあらためて思っては幼幼稚園の先生にいたてを語りに思っては秦商太な仕事ができて幸せだ感動し、こから子どもたちと充実した生活を過ごして子どもたちが毎日楽しく過ごしていくうちに日々子どもたちと一年前に学び成長していくと思いました。又まだ2年目で経験は浅いですが5年、10年と続けて子どもたちに「先生になりたい」と小僧の存在には必ずお出でで思ひます。

年中 2年目

調布白菊幼稚園様 研修に参加して

GSを中心に保育を見させて頂き、様々は刺激を受けてました。各部屋に13人ずつ子ども達を分けてレッスンをすることで、一人一人をしっかり見られると感じました。また、英語のみで話す、担任も近くにいなければ、自ら理解しようと集中力も高まる感じました。また、レッスンを担当するインストラクターもほぼ変わらないので、子ども達と信頼関係が出来た感じました。

GS以外にも園舎を見させて頂いた印象に残ったものがありました。一つ目は制服の帽子に付いているリボンです。放課後、サンカーや延長、迎え等が色分けしており、連絡がすぐわかる仕組みでした。保護者が書き忘れてしまうこともあるのでミスが減ると感じました。また、担任以外も見て分かるのでどのクラスに行けば良いか教えることが出来るので好感を持ちました。

二つ目はバスの座席に番号が貼ってあることです。毎日、自分が座る席を覚える為に保育者が声掛けしていますが、「〇〇くんの後ろですよ」、「青色の2人席ですよ」等と伝わればいいこともあります。ですが、番号が付いていることで自分がどこに座るのか理解出来るので、スムーズに乗降が出来ると感じました。

遊びとGsを中心としていて、遊具は子どもだけでなく、大人でも楽しもうと思うものがたり好感を持てました。方針は異なりますが、実際に取り組みたいと思うものもあり、とても良い研修になりました。

年長 二年目

調布白菊幼稚園様 研修に参加して

子供達が幼稚園のどこでも自由に元気いっぱいに遊べる幼稚園だという印象を受けました。

園庭にはよくある滑り台や鉄棒、雲梯等だけでなく、高くまで登れるアスレチックやターザンロープ、木で作られた遊具など、様々なものがありました。砂場では深くまで掘れるように砂を1m入れていたり、泥遊びを一年中行えるように泥遊び場とシャワーがあったり、三輪車がいつでも遊べるように常に外に置いてあったりと、決まった時だけ遊べるものといったものではなく、いつでも子供達が遊びたいときに遊びたいものを選んで遊べるようになっていて、外遊びの幅が広いと思いました。園庭は木登りができたり、高さのある遊具があつたり、死角があつたりと、先生の目が十分に行き届かず、危険だと思える部分がたくさんありがとうございましたが、あえてそういったところを残し、子供達が自分で危険を学べる環境になっていました。実際にアスレチックなど遊具を体験させていただき、子供達の目線で楽しさを実感できたとともに、ここは危険だと思えるところもあり、子供達が自分の体験を通して様々な経験ができると思いました。

また園内の環境で、園舎内は下駄箱から入ってすぐが広くホールのようになつておあり、廊下も広く園舎内で走ってもよく、雨の日でも元気いっぱいに遊べるようになっていました。教室の廊下側がガラス張りで見通しが良く、開放感もあり、先生達が互いの保育の様子をすぐに見ることができるのはいいなと思いました。教員の数が多く、延長専門の先生が何人もいたりするのは新鮮でした。

研修の中でとても良いと思ったことに、通園帽子のリボンがありました。放課後サッカー等の課外活動やお迎えの場合は、それぞれの色のリボンを帽子につけており、一目で見て分かり、連絡ミスやバスの乗せ間違いが減る制度であると思いました。

調布白菊幼稚園様は教員の数も多く、お互いの負担が減るようにいろいろな場面でフォローし合っており、園の設備面での環境も、人の面での環境も充実していると感じました。この研修で全く異なった環境に多くの刺激を受け、たくさんの学びがありました。

年中2年目